



Plan Do Check Action

教師の仕事の魅力を伝えること

さみさと小学校 校長 四杉 昭康

先日、職員から「校長先生は、これまで教師を辞めようと思ったことはありませんでしたか」と尋ねられました。そのとき、咄嗟に思い浮かんだのが、「教え子の存在」でした。そして、「苦しいときやつらいときもあったけど、何とか続けられたのは、教え子のおかげです。教え子との関係は自分の財産で、元気の源です」と答えました。教師の仕事の魅力は他にもたくさんあるかと思いますが、私にとって教え子の存在は、人生をポジティブに生きるうえで今もなお大切なものです。

初任のとき、5年生のクラスを担当しました。昼の校内放送でクラス紹介をする企画があり、自分のクラスに順番が回ってきました。子供たちと話し合っ、全員が出演する10分程度の学園ドラマを作ることにしました。シナリオは自分が勝手に作ったものを子供たちに伝え、子供たちもノリノリの様子でした。VHSのビデオカセットテープをビデオカメラに入れて肩に担ぎ、校舎内外でロケ収録しました。数日間の収録の後、子供たちと出来映えを視聴して確認し、校内放送に臨みました。この間夢中で取り組んだことで、クラスの一体感や凝集性が高まりました。校内での評判もよく、当時の校長先生はすごく褒めてくださいましたが、後で授業時数が足りなくなる始末で、反省しきりでした。十数年前、その子供たちから初めての同級会の招待を受けたときも、その収録ドラマの話題が出て、遅くまで大いに盛り上がりました。

中堅にさしかかったとき、6年生のクラスを担当しました。クラスには運動が得意なA男がいました。ある日、急に両親が別居することになったA男は、しばらくの間、学校まで電車で通うことになりました。私は許可を得て（何をどう許可してもらったかは不明ですが）1か月間ほど、A男を学校から駅まで朝夕車で送迎しました。A男は負けん気の強いリーダー的な存在だったので、学校では元気に振る舞うものの、車の中では、両親のことを心配したのか時々泣いていました。私も一緒に泣くことくらいしかできませんでした。その後、小学校生活を謳歌したA男は無事卒業し、中学校へ進学しました。A男は中学校でも当初活躍したそうですが、その後不登校気味になり、高校以降の音信は途絶えてしまいました。その子供たちが20歳になったとき初めての同級会に参加しましたが、そのときもA男の姿はありませんでした。次の同級会のときにもやはり彼の姿はありませんでした。ところが、A男が小学校を卒業してから25年経ったある日、思いがけず彼から電話が入りました。「このたび縁あって結婚することになりました。結婚式に出席していただけますか」電話の向こうのA男の声は当時とあまり変わっていませんでした。涙を悟られないように「喜んで出席させていただきます」と伝え、久しぶりの昔話に花が咲きました。何十年もの間、このときを待っていたかのような懐かしく清々しい気分になりました。

「教師冥利に尽きる」という言葉があります。「教師になってよかった」「これだから教師の仕事はやめられない」と胸を張って言いたいのですが、昨今の教員の多忙化やなり手不足の問題等、課題は山積しています。しかし、今教師人生を振り返って感じるのは、これからの教育に携わる人たちに教師の仕事の魅力ややりがいを伝え続けていきたいということです。



朝日町保小中一貫教育を振り返って

令和4年度、朝日町保小中一貫教育がスタートしました。初年度の取組について各校の保小中一貫教育コーディネーターが紹介いたします。

保育所との交流を通して

あさひ野小学校 上嶋 早織

本校は、目の前に保育園があり、日常的に交流することができる環境である。特に1年生の子供たちにとっては、数か月前まで一緒に過ごしてきた友達や先生方との距離が近く、安心して過ごすことができる。天気の良い日の休み時間には、小学校の子供たちが、玄関前広場から保育園の庭で遊んでいる子供たちと声をかけ合って交流する姿も見られる。また、保育園児たちにとっても小学校の様子を近くで見たり感じたりすることができる環境である。保育園の子供たちが散歩やドングリ拾い等の活動で、小学校の庭へ遊びに来ることもある。



1月に年長児と1年生の交流会を行った。事前にオンラインで1年生から年長児に交流会への招待のメッセージを伝えた。画面を通してではあったが、子供たちは互いに顔を見合わせて話すことができ、とても喜んでいました。交流会では、1年生が、校内を案内したり、自分たちがつくったおもちゃで一緒に遊んだりすることを通して、相手を意識して行動することができた。また、年長児が喜んでいたり仲良く活動することができたこと

から、自分たちの取組に自信をもつことができた。さらに、2年生に進級することへの希望も感じることができた。初めは緊張した様子であった年長児が、活動が進むに従って笑顔が増え、一緒に楽しむことができた。もうすぐ1年生という気持ちを高める活動となった。

これまでこのような活動を行ってきたが、改めて「一貫教育」として位置付けることで、交流の目的を明確にして取り組むことができた。今後も交流活動の時期や交流学年等について検討し、進めていきたい。また、保育参観や学習参観を行ったり研修会に参加したりして、教員と保育士が互いの教育及び保育の現場について理解を深めることが大切であると実感した。

乗り入れ指導の実践より

朝日中学校 宮島 誠

令和4年4月より「朝日町型保小中一環教育」がスタートしました。この活動の具体的な取組の一つとして、私は小学校2校で乗り入れ授業を行っています。

実際は、令和2年度からさみさと・あさひ野の両小学校5・6年生（1年目は4年生も）の算数科の授業を、週に1回担任の先生とともにを行っています。これは、中学校進学時に、新しい環境に不適應を起こす「中1ギャップ」を解消するとともに、9年間切れ目のない指導ができることで、より高い学習効果が得られるというメリットを見込んでいます。また、算数科・数学科は学年が上がるにつれ苦手意識をもつ子供が増えることから、内容が高度化する中学校を前に専門性の高い教員が手厚く支援することで、その後の学びの可能性が広がることを期待できます。

授業では、主に机間指導をしながら一人一人に応じた声かけをしたり、時には担任に代わり授業を進めたりするなど担任と協力しながら指導に当たっています。

小学校の先生方は、子供の興味・関心を高めるために日常生活の具体物や具体場面を取り入れた授業を多く行っておられ、中学校数学科の指導をする上でも大いに役立っています。

また、算数科・数学科は思考することによって得た知識の積み重ねが必要となります。今後は、子供の既習内容と新たな学習内容をしっかりと把握し、小・中のつながりを意識して授業を行っていくことが大切です。



【 子供の感想 】

- ・問題の解き方が分からなかったときや間違っていたときに、丁寧に分かりやすく説明してくださり、ちゃんと理解することができました。それに、中学校のことも知ることができて、中学校へ行くことがもっともっと楽しみに became.
- ・中学校の先生との勉強がとても楽しかったです。先生に分からなかった問題や新しい考え方を教えてもらって、前よりも問題をスラスラ解けるようになりました。これからも計算練習をいっぱいやって、もっと速く解けるようにしたいです。

保小中一貫教育にかかわって さみさと小学校 扇谷由香子



令和4年度からスタートした「朝日町型保小中一貫教育」のコーディネーターとして、1年間携わってきたの感想を「小小連携」の立場から述べたいと思います。

1つ目の取組としては、学年会の開催です。月に1回程度、オンラインや電話等で同学年の先生方と情報交換の場をもちました。私が担当する2学年では、特に生活科の学習における情報交換を多く行いました。「まちたんけん」の学習では、地域や学校の規模が違うため学習内容が異なりますが、それぞれの進捗状況を知ることによって参考になる点が多々ありました。あさひ野小学校にとっては相談相手がいることで安心感につながり、さみさと小学校にとっては視野が広がる結果につながったと思います。

もう1つの取組は、高学年による学校行事です。以前から行われていた合同記録会に加え、今年度は、5学年による合同校外学習（白川郷、イタイイタイ病資料館）と6学年による合同宿泊学習（国立立山青少年自然の家）が行われました。いずれの行事も、両校が交流するよい機会になったと思います。しかしながら、学校行事の目標に掲げられている資質・能力は、「学校行事の意義の理解」「計画や目標についての話し合い」「活動目標や活動内容の決定」「体験的な活動の実践」「振り返り」といった実践も含めた全体の学習過程の中で育まれるものであることを考えると、計画と運営の仕方をさらに充実することが望まれます。両校合同で特別活動を行う際、目標や内容をしっかりと吟味し、何よりも両校の子供の実態をしっかりと捉え、事前・事後を含めた綿密な計画を立てていくことの難しさを感じました。

今年度の反省を生かし、今年度以上に実りの多い連携になるよう進めていきたいと思ひます。

朝日町教育委員会派遣 内地留学を終えて

「内地留学を終えて」

朝日中学校 山田 智徳

富山大学教育学部での3か月の研修は、とても実りあるものになりました。GIGA スクール構想が打ち出されてから、現場のICT環境は大きく変わりました。それらをどう活用すれば目の前の生徒たちにとって最適な手立てとなるのかをじっくり考えたいと思いICT活用を研究テーマとしました。

研究室では、様々な教育書や論文を読んだり、県内各校の研修会に参加したりして研究を進めました。今までは、自身のこれまでの経験を基にした感覚を頼りに実践していた部分があったように思います。しかし、研究を進めるにつれて、ICTに関する様々な理論や工夫を凝らしたICT活用の実践事例等について深く知ることができました。日々の生活の中で活用できそうな実践も多くあり、大きな刺激を受けました。また、研究室の長谷川 春生先生や同じ内地留学生、大学院生の方々とそれぞれの研究テーマについて話し合い、とても有意義な時間を過ごすことができたと感じています。

私が研究を進める中で深く追究したことは、「個別最適な学び」の実現です。朝日町が整備してきたICT環境を有効利用し、生徒によりアダプティブな働きかけができないかということを考え、動画教材の開発を進めることにしました。内地留学は終わりましたが、すべての生徒の力を引き出す個別最適な学びの実現に向けて、勤務校に戻った今も研究を続けています。これからも研鑽を積み、常に自身をアップデートしていくことができる教師でありたいです。



「内地留学を終えて」

さみさと小学校 中島 麻衣

富山総合教育センターの教育相談部に研修に行かせていただき、教育相談や特別支援教育について学び直すことができました。研修中は、教育相談専門会議や部内研修、講義に参加し、教育相談の進め方、子供との関わり方、他機関との連携の仕方等を学びました。

教育相談部では、何より子供のことを1番に考え、「子供の声、話を聴くこと」を大切にし、日々研鑽されていました。研修中、自分は今まで子供の話をどこまで聞いていたか、子供の願いを知ろうとしていたか、自問自答していました。

私がこの研修で改めて学んだことは、「子供の願い・思い」が土台にあり、それを基に教育活動を行うこと、私たち担任は、子供の願い・思いを聞き取り、「こうになりたい」という願いを達成するために日々サポートすることが大切な役目であるということです。

また、今回の研修では、今まで授業で活用してきたICTの活用の仕方を振り返り、特別支援教育で、ICTをどのように生かすこと、どのように取り入れることが効果的なのかを事例を通して考えました。表現が苦手な子供が、ICTを使用することで苦手な部分を補って表現することができたり、理解に行きつく前に混乱して分からなくなっていた部分が整理され理解できるようになったという場面が見られたりしました。さらに、ICTを活用することが、人との関わりを生み、子供と大人、子供と子供、子供と学級等との関わりを広げるものだとの認識することができました。

今回の研修で、学んだことを子供たちとの関わりの中で生かしながら、さらに研修を積んでいきたいです。



保小中一貫教育 主な行事

第1回 学校運営協議会 4. 27



コミュニティ・スクールだけがおくことのできる学校運営協議会がスタート

保育士による授業参観 5. 31



保育士が1年生の学校での様子を参観します。

小学校6年生による中学校体験入学 9. 29



「中1ギャップ」を少しでも和らげるために、小6児童が実際の授業を体験したり、学校見学をしたりしました。

保小中合同音楽会 10. 25



3保育園の年長児と小6児童が中学校合唱コンクールのリハーサルで音楽を鑑賞。

保小交流会 12. 12 (さみさと小)

1. 20 1. 31 (あさひ野小)



園児と小1児童が交流しました。園児は、保育園に戻ると1年生の作ったおもちゃやゲームを参考に自分たちも作ったりお礼の手紙を書いたりしたそうです。交流が深まりました。

一年間、ありがとうございました！

令和4年度朝日町小中学校研修会 委員会・調査員の皆さん

◇朝日町教育センター運営委員

| | | |
|---------|----|-------|
| 小中学校校長会 | 代表 | 四杉 昭康 |
| 中学校 | 代表 | 梅澤 健一 |
| 小教研 | 代表 | 竹内 静 |
| 教頭会 | 代表 | 大森 祐子 |
| 教務主任会 | 代表 | 宮島 誠 |

◇朝日町学力向上推進委員会

| | |
|---------|-----------------|
| 朝日中学校 | 川田 彰 (委員長) |
| あさひ野小学校 | 高澤 朋美 (国語) |
| あさひ野小学校 | 鹿熊 康平 (算数) |
| あさひ野小学校 | 兵庫 秀典 (理科) |
| さみさと小学校 | 河村 夏美 (国語) |
| さみさと小学校 | 吉島 大貴 (算数) |
| さみさと小学校 | 島 あやめ (理科) |
| 朝日中学校 | 大瀧まみは・青嶋 浩 (国語) |
| 朝日中学校 | 山田 智徳 (数学) |
| 朝日中学校 | 岩田 寿浩 (理科) |

◇情報教育研究調査委員

| | |
|---------|------------|
| さみさと小学校 | 上田 勝 (委員長) |
| あさひ野小学校 | 清水 颯太 |
| さみさと小学校 | 松井和貴子 |
| さみさと小学校 | 高澤 伸治 |
| 朝日中学校 | 岩崎 將展 |
| 朝日中学校 | 岩田 寿浩 |

◇郷土教育教材開発研究調査委員

| | |
|---------|-------------|
| あさひ野小学校 | 大森 祐子 (委員長) |
| あさひ野小学校 | 上野 裕美 |
| さみさと小学校 | 四月朔日安輝子 |
| さみさと小学校 | 谷口 優稀 |
| 朝日中学校 | 新田 昌司 |

◇朝日町小中学校児童作品展実行委員

| | |
|---------|-------------|
| さみさと小学校 | 四杉 昭康 (委員長) |
| あさひ野小学校 | 兵庫 秀典 |
| さみさと小学校 | 河村 夏美 |
| 朝日中学校 | 寺田 雄一郎 |
| 朝日中学校 | 岩田 寿浩 |

活動報告 情報教育研究調査委員会・学力向上推進委員会

研修テーマを『ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業モデルの作成—教育 DX の推進—』とし、6回の研修会を実施した。ICT を活用した授業実践をもとに成果と課題について出し合った。今後もさらに、授業実践を積み上げ、授業改善していくことが課題である。3名の先生授業公開ありがとうございました。

活動報告 郷土教育教材開発研究調査委員会

今年度スタートした「ふるさと科」の検証や現地学習会の計画、わたしたちの朝日町の改訂を行った。次年度の現地学習会は、新採や新任教員と希望者のみの参加の計画でいる。

編集後記

大好きな本の紹介です。渡辺和子著「置かれた場所で咲きなさい」です。癒やしの一文を紹介します。



どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。

発行：朝日町教育センター

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053-1

TEL (0765) 83-0279

FAX (0765) 83-0279

E-mail asahi-ec@tym.ed.jp

Web サイト <https://center.asahischool.jp>